

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.100



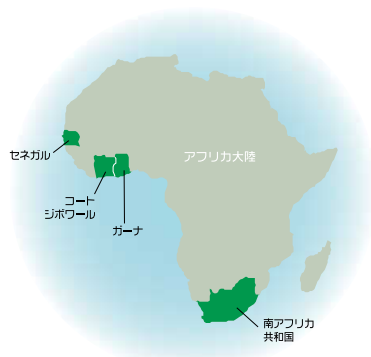
「バックドロップ(写真館の撮影背景)」(ガーナ)
(「アフリカのストリートアート展」より)

contents

❖「アフリカのストリートアート」展	[2 ~ 5]
❖平成14年度新収蔵作品紹介	[6 ~ 10]
❖所蔵品によるテーマ展「岡島コレクションと工芸」	[11]
❖移動美術館	[11]
❖お知らせ	[11]
❖福井県立美術館友の会	[12]
❖広報板 日本まんなか共和国	[12]

Street Art in Africa

アフリカのストリートアート展



会 期 : 平成15年7月4日(金)~8月3日(日)
開館時間 : 9:00~17:00(入館は16:30まで)
毎週金曜日は20:00まで開館
(入館は19:30まで)
観 覧 料 : 一般800円 / 大高生500円 /
中小生300円(30名以上の団体は2割引)
休 館 日 : 7月7日(月)・14日(月)

関連イベント

1. アフリカ打楽器の魔術師
カクラバ・ロビ演奏会
7月5日(土) 14:00~15:30
2. アフリカン・ヘアスタイル体験
「エクステンションや編み込みを
体験してはどうですか」
7月13日(日)・27日(日)
10:00~12:00 / 13:30~16:00
要電話予約
3. 担当学芸員による
「アフリカのスライド鑑賞と
ギャラリートーク」
7月12日(土)・20日(日)・26日(土)・8月3日(日)
14:00~
4. 会場内に展示してあるバックドロップ
(ガーナの写真館にある撮影背景)
の前で自由に写真が撮れます。

全イベントとも無料です。
但し観覧券をお買い求めいただいた方に限ります。

2003年はアフリカ年として位置づけられていて、様々な関連事業が計画されています。福井県立美術館でも、7月4日から8月3日まで『アフリカのストリートアート展』を開催します。本展ではアフリカの中で特に西アフリカに焦点を当て、その中でも、コートジボワール、ガーナ、セネガルの3カ国からの展示品に一部南アフリカ共和国から収集してきた展示品も加え紹介します。アフリカの美術と言えば一般的な連想は伝統的な仮面や彫像だと思いますが、現代のアフリカには様々なジャンルのアートが混在しています。伝統的なスタイルで制作されている仮面や彫像もありますし、西洋の影響を受けたいわゆる純粋美術もあります。その中で今回の展覧会では、伝統的な仮面でもなく、純粋美術でもない、現在の都市部のストリートで目にする人々の生活に根ざしたアートやデザインを紹介します。

西アフリカは古来アフリカ大陸の中でも特に文明の発達した地域で、伝統的な彫像などが発達した地域でもあります。これらの国々では、現在首都とされている都市が植民時代に行行政都市として作られ、戦後の独立後に急速の都市として膨張したところが多く、アフリカ最大と言われる巨大な人口をかかえるナイジェリアの大都

市ラゴスをはじめとして、人口約200万人を抱え、スカイスクレーパーが立ち並ぶコートジボワールの首都アビジャン、やはり200万人ほどの人口をかかえるセネガルの首都ダカールやガーナの首都アクラなどの大きな都市があります。都市化というのは、現代アフリカの大きな特徴で、都市のストリートはまさに現在のアフリカ文化の揺籃の地とも言えます。まさにストリートが表現の場でもあり、展示の場でもあり、売買の場でもあるわけです。

本展の展示品の総数は400点弱になりますが、その9割ほどは本展覧会のためにアフリカから収集してきたものです。その多くは粗雑であったりチープであったり、一般の日本人が知っている美術概念からは程遠いものが多いですが、しかし同時に、独特の色彩感覚やデザイン感覚をもち、日本では感じることでできない魅力やたくましい生命力を持っています。今回の展覧会ではこれらの展示品を、ストリート・グラフィック、ガラス絵、ストリート・ファッション、床屋、カフェ、アートコフィン(装飾棺桶)、アートラジオ(装飾ラジオ)、音楽・映像、スーベニール、生活雑貨の各コーナーに分けて、現代アフリカの都市文化を紹介したいと思います。

ストリート・グラフィック

このコーナーでは、コートジボワールの首都アビジャンやガーナの首都アクラで収集した床屋の看板やサンプルボードを紹介します。アフリカの文化を語る際には、女性のヘアスタイルは、芸術的特徴を持った風俗として忘れることができません。本展でも、床屋コーナーを設けていますが、このグラフィックコーナーでも床屋の看板類を取り上げます。不思議なことにアビジ



床屋看板(右:コートジボワール/左:ガーナ)

ャンで見かける路上の床屋は看板も合わせて殆ど男性用のものでした。女性はどのように髪結いを自宅に呼んで自宅で結ってもらうとのことでした。しかしそれに反してトーゴの首都ロメでは女性の看板ばかりが目立ち、ア

クラでは、男性女性両方のヘアサロンや看板が見られました。

またガーナの首都アクラの写真館では、写真撮影時に大画面の絵バックドロップを背景に写真を撮ることが流行りましたが、このバックドロップの絵の内容が興味深く、人々があこが

れる背景、例えば欧米の大都市の光景や、ちょっと贅沢な家の近代的な居間などが描かれます。これらは道路脇にアトリエを構えているストリートアーティストたちが描いています。今回の

展覧会ではこれらのバックドロップの前で実際に写真を取ることもできます。

またこのコーナーでは、ガーナで収集した衣料店で実際に使っていた平面のマネキンや、顔つきハンガーなども展示します。



散髪サンプルボード(ガーナ)



平面のマネキン(ガーナ)

ガラス絵

セネガルのガラス絵は、四角く切った透明ガラスの裏側から絵具で絵を描き、表側から鑑賞するもので、現在は土産品として売られていますが、古い歴史を持つもので、描かれる内容は歴史的内容や同時代の生活などで、常に時代を反映して徐々に変化します。

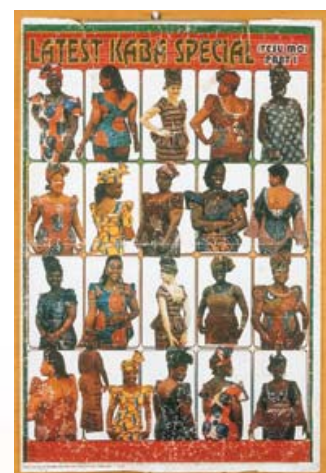
ストリート・ファッション

アフリカの色彩感覚やデザイン感覚は実に大胆で日本のそれとは全く異なるものです。それはまさに芸術的ですがアフリカの特徴を最も雄弁に表す

ものの一つです。このコーナーでは、特に現代の生活を反映したデザインのものを選んで、服を仕立てる前の生地を展示します。ここにあげたよ



テキスタイル(コートジボワール)



מודפוסטאר(ガーナ)

うなスプレーカンを持った手や、パイプ、家、車などを服の生地にデザインするなんて日本では考えられないでしょう。



床屋

このコーナーではアビジャンの路上で実際に使っていた床屋キャビンやカツラを展示します。アビジャンの路上ではしばしばこのようなキャビンを見かけます。このキャビンには、LEO COIFFURE (レオ美容室) と書いてあります。またキャビンの前面や側面にはポップな絵が書いてありますし、中に貼っているポスター類も大変面白いもの



素敵な髪型の少女(ガーナ)

があります。ストリート・グラフィックのコーナーでも書きましたが、アフリカのストリート・アートを紹介するときにヘアスタイルは欠くことができません。路上で見かけられるこれらのキャビンもまたポップな魅力を持っています。このコーナーでは現地で撮ってきた面白い髪型の写真も展示します。



かつら(ガーナ)



床屋(コートジボワール)

カフェ

このコーナーではアビジャンのトレッシュビルといわれる貧困層が住む地区の路上で、建物の壁に貼りつくようなかたちで作ってあった実際のカフェと、ビールなどの看板を展示します。

カフェには、CAFETARIAT LE SILEXと書いてあります。コート・ジボワールはフランス語圏なのでこれもフランス語ですが、一般にはCAFETERIAと書きます。SILEXは火打石という意味で、カフェにしてはずいぶん変わった名前です。



ストリート上のカフェ(コートジボワール)

アートコフィン (装飾棺桶)



装飾棺桶 ビール(ガーナ)



装飾棺桶 ロブスター(ガーナ)



装飾棺桶 蝶々(ガーナ)



装飾棺桶 クライスラー(ガーナ)

ガーナでは、キリスト教徒やイスラム教徒以外の伝統的宗教を信じている人たちは、死者を好きな形にデザインした棺桶に入れ埋葬します。ガーナの首都アクラ近郊のデシ村周辺にはいくつもの工房があって、このような棺桶を作っています。これらの棺桶を見るとガーナの人々のあまりにアッケラカンとした死に対する態度に驚きます。これらの棺桶は欧米でそのアートとしての側面が認められ美術館が収集したり、画集が出版されたりしています。今回の展示品は現在最も著名な棺桶職人の一人Paa Joeの工房で作ったものです。

アートラジオ (装飾ラジオ)

アートラジオは、殆どラジオに見えないほど様々なデコレーションが施してあるラジオで、南アフリカで作られています。このようなラジオが作られるようになった理由として、アパルトヘイト時代に、反体制活動家が警察の目から逃れ情報を入手するためにラジオを偽装したとの説もありますが、本展覧会で展示されるアートラジオを持っていた南アフリカのコレクターによると、これらのラジオは単に芸術的な表現欲によって作られたものであるということです。いずれにしろその発想や表現性には独特のものがあ

スーベニール

このコーナーではアビジャンにあるマルシェ・ココディという小さな商店の集落とも言えるマーケットやグラン・バッサンというアビジャン近郊の保養地の路上脇で売っている土産物やおもちゃ類を展示します。針金で作ったおもちゃの技巧には目を見張るものがあります。



ベニヤ製蝶(コートジボワール)



コロン人形(コートジボワール)



針金のおもちゃ(コートジボワール)

音楽・映像

このコーナーでは、ガーナやコートジボワールで収集してきた音楽カセットやCD、ビデオなどのジャケットを展示し、また音楽やビデオを実際に流します。



CD(コートジボワール)

生活雑貨



プラスチック製のバケツ、やかんなど(コートジボワール)



ブリキ製の箱とブリキシート(コートジボワール)

このコーナーでは、コーラ缶や缶詰缶を作るプリントブリキシートの廃物で作った靴やトランク、プラスチック製のバケツやヤカンなどを展示します。アビジャンの

ごく普通の人々が利用する食料品や日用品を売っている市場で収集したものです。その独特のデザイン感覚や色彩感覚に驚かされます。

(主任学芸員 芹川 貞夫)

平成14年度新収蔵作品紹介

福井県立美術館では、岡倉天心とその周辺の作家及び作品、福井にゆかりのある作品、国の内外、時代を問わず優れた作品の三つの基本方針に従って作品を収集しており、平成14年度もこの方針の下、福井ゆかりの作品・作家からは曾我直庵、小野忠弘、司辻光男、「源氏物語図屏風」、国内外を問わず優れた作品からは19世紀風刺雑誌「ラ・カリカチュール」の合計119点の作品を収集しました。(購入8点、寄贈53点、保管転換1点、寄託57点)

特に一昨年亡くなった小野忠弘については、昨年の3月から約半年間かけて当館が独自に行った小野のアトリエに残されていた作品および資料の調査に基づき、晩年を中心に110点の作品を収集しました。(購入4点、寄贈50点、寄託56点)

日本画

曾我 直庵

Chokuan Soga

「松柏に鷹図屏風」

制作年: 桃山時代(16～17世紀)

技法: 紙本金地墨画

法量: (各)153.0×370.0cm

形態: 屏風装(八曲一双)

収集区分: 購入

松柏の巨樹と大鷹を、金雲たなびく大画面に水墨の手法で描いた作品です。この種の作品は室町時代以降、主に漢画系画派によって数多く描かれました。その中で本図に見る岩・樹木の粗々しい筆致や鷹の詳細な描写、そして大樹と金雲による雄大な構成は、狩野永徳以降流行した桃山時代障壁画の特徴を示しており、豪壮で明快な印象を与えています。

作者曾我直庵(生没年不詳)は桃山時代の人物で、室町時代に越前朝倉氏の御用絵師であった曾我派の末裔といわれています。本図は画鷹の名手として知られた作者の画風をよく伝える作品といえます。



(右 隻)



(左 隻)

「源氏物語図屏風」

(福井県指定文化財)

制作年: 江戸時代(17世紀)

技法: 紙本金地着色

法量: 150.0×360.0cm

形態: 屏風装(六曲一双)

収集区分: 寄託(今立町永林寺蔵)

『源氏物語』五十四帖の中から、「橋姫」「椎本」「総角」「東屋」「早蕨」「宿木」の各場面が、配されています。いわゆる「宇治十帖」のうちの前半六帖分が絵画化されており、本来は後半四帖分を描いた片隻とともに一双をなしていたものと思われます。各場面は何れも金雲で区切られ、濃密な色彩によって色鮮やかに描き出される画面は華やかな雰囲気を出しています。

本図の筆者については明らかでないが、丁寧な筆致と彩色による品格高い描写から、江戸時代初めの狩野派画人の作と考えられます。

米谷 清和

kiyokazu Yonetani

制作年： 昭和56年(1981)
昭和60年(1985)
平成 9年(1997)
平成12年(2000)
平成12年(2000)

技法：紙本着色
法 量： 178.0×215.0cm
230.0×173.5cm
162.0×227.0cm
162.0×227.0cm
112.1×145.5cm

形態：額装

収集区分： 購入 / 寄贈



「夏」



「雪降りしきる」



「雪に立つ」



「たゆたゆ」



「小春日」

米谷清和は福井市出身で現在多摩美術大学教授を務める日展を中心に活躍する日本画家で、都市の群像風景に鋭く時代の今を読み取った作品で現代日本画に新しい領域を開いてきました。

「夏」は、作家自身が代表作に指折る作品で、郷里福井の寺院で見かけた報恩講にお参りする老人たちを描いています。「雪、降りしきる」は作家自身毎日利用する東京・渋谷の光景です。昨年当館で開催した回顧展では入館者アンケートで最も人気を集めた作家もお気に入りの自信作です。

ともに、描かれた場を特定する個性は完全に除去され、作家自身の感情投影も払拭され、場と状況だけが普遍的なものとしてあるがままに描出されています。

小野 忠弘

Tadahiro Ono

1913年青森県に生まれ42年に福井の住人となった小野忠弘は、2001年に88歳で他界するまで、約70年間にも及び制作活動を繰り広げ、その独特の造形意識は、サンパウロやヴェニス・ビエンナーレなどの国際的な舞台において高い評価を受けました。

85年には当館においてそれまでの画業を回顧する「小野忠弘展」が開催され、80年代後半からは、毎年のように開催された個展において次々と新作を発表しました。

小野は80歳を超えてからも[BLUE]や[Silver]といったシリーズを精力的に制作し続けましたが、彼はこれらの作品群によって、全く独自の世界を確立したといえるでしょう。

無題 (BLUE)

制作年：不詳
技法：混合技法
法量：178.6 × 225.5cm
形態：仮額装
収集区分：購入

無題 (シロ)

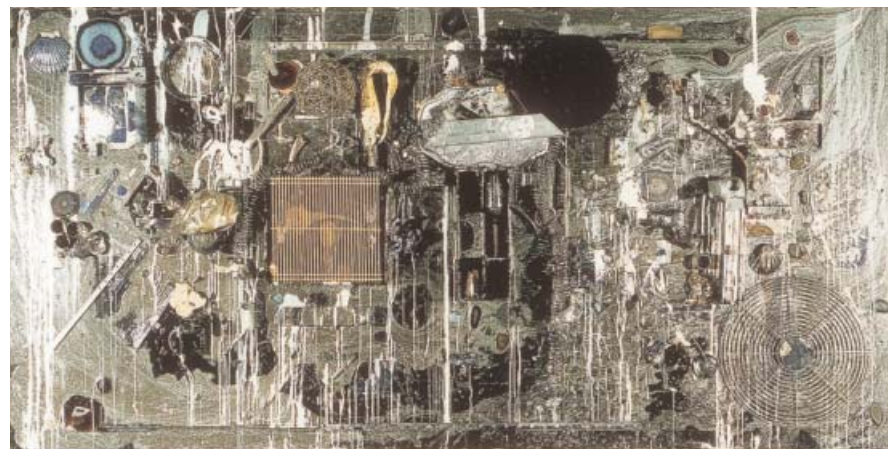
制作年：不詳
技法：混合技法
法量：120.0 × 240.0cm
形態：仮額装
収集区分：購入

無題

制作年：不詳
技法：混合技法
法量：123.0 × 244.2cm
形態：仮額装
収集区分：購入



「無題 (BLUE)」



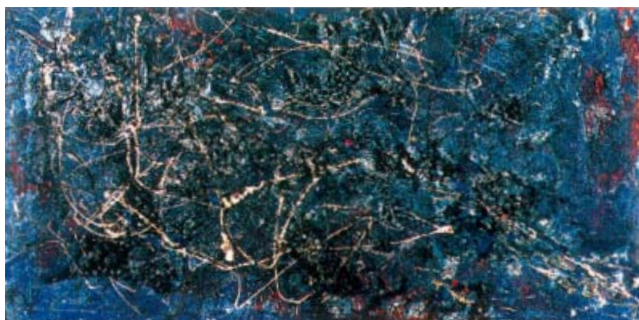
「無題 (シロ)」



「無題」



「カーナバル円空」



「作品」



「モナドノック」

カーナバル円空
制作年：2000年
技法：混合技法
法量：169.3 × 138.0cm
オブジェ 42.0 × 47.2 × 43.2cm
形態：未装
収集区分：購入

モナドノック
制作年：1956年
技法：油彩
法量：90.5 × 90.5cm
形態：仮額装
収集区分：寄贈

作品
制作年：1962年
技法：混合技法
法量：92.0 × 183.5cm
形態：未装
収集区分：寄贈

ラ・ファム つばけ
制作年：1972年
技法：油彩
法量：41.5 × 32.0cm
形態：未装
収集区分：寄贈

スタジオパートゼロ
制作年：1980年
技法：油彩
法量：72.9 × 91.0cm
形態：未装
収集区分：寄贈

つばけ
制作年：1980年
技法：油彩
法量：73.2 × 61.0cm
形態：未装
収集区分：寄贈

荒野
制作年：1983年
技法：油彩
法量：121.2 × 121.5cm
形態：仮額装
収集区分：寄贈



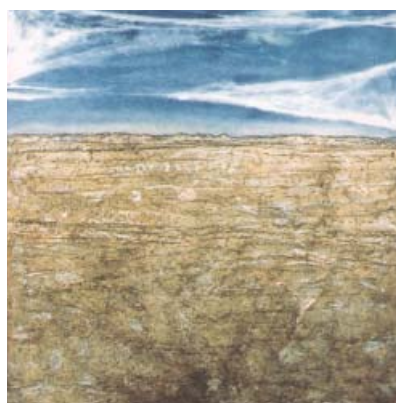
「ラ・ファム つばけ」



「スタジオパートゼロ」



「つばけ」



「荒野」

版 画

「ラ・カリカチュール」
(19世紀風刺雑誌)

制作年:1830~5年
技法:紙、石版・手彩色
法量:(各) 26.0×33.5cm
形態:装丁本(10冊)革装
収集区分:購入

「ラ・カリカチュール」は、シャルル・フィリップンによって発刊された19世紀の風刺誌の中で最も著名な風刺週刊誌ですが、ルイ・フィリップの治世を痛烈に批判した政治風刺画によりわずか5年で廃刊に追いやられました。

オノレ・ドーミエなどの挿絵画家が参画し、テキストはフィリップンの他にユゴー、バルザックらにより執筆されました。創刊号から最終号までの251号が10冊に合本されており、リトグラフ総数は529点のうち91点がドーミエの作品です。ドーミエの活動期間中(1835~65年)は、数年間を除いて報道の自由が制限されていたため、「ラ・カリカチュール」紙に発表された政治風刺画はドーミエの本領を表す数少ない貴重な作品です。



工 芸

司辻 光男

Mituo Kasatuji

「波涛をみる」

制作年:昭和55年(1980)
技法:陶
法量:34.0×37.5×74.5cm
形態:陶器
収集区分:寄贈(保管転換)

司辻光男は宮崎村出身で、同地を拠点に日本現代工芸美術展および日展を活躍の舞台とする陶芸家です。本県美術界にあっても陶芸部門を牽引する中心作家です。

本作品は第12回日展出品作で、冬の越前海岸で岩壁に砕け波の花を散らす波涛が表現されており、作家が陶芸家としての地歩と評価を固めつつある時期の作品です。

展覧会終了後に教育庁文化課へ寄贈されましたが、当館所蔵品として活用すべく保管転換の手続きがとられました。



所蔵品によるテーマ展

会期:2003年7月4日(金)~8月3日(日)

「岡島コレクションと工芸」



後藤乗真「貝尽図目貫」室町時代(16世紀)

岡島コレクションは、ニューヨークで美術商として活躍した大野出身の岡島辰五郎氏(1880 - 1962)が収集した刀装具などの細密な金工品が主体のコレクションです。岡島コレクションは昭和33年(1958)に美術館の建設資金とともに岡島氏より福井県に寄贈され、同年養浩館裏に岡島美術記念館が建設されました。その後施設の老朽化により記念館は昭和62年(1987)に閉館し、岡島コレクションは平成2年(1990)に県立美術館に移管されました。

今回の所蔵品によるテーマ展では、「軍扇文金合口拵」、後藤祐乗「連獅子図目貫」など岡島コレクションの優品と館蔵の工芸品をご紹介します。

アフリカのストリートアート展ご入場の方は、一緒にご覧いただけます。

移動美術館

福井県立美術館では、館蔵のコレクションを嶺南地方の方々にも身近に鑑賞していただけるよう、「移動美術館」を開催します。

今回の展覧会では、

曾我直庵

米谷清和

小野忠弘

19世紀のフランスの風刺雑誌
「ラ・カリカチュール」

など本紙6~11頁で紹介した昨年度の新収蔵作品を中心に展示します。

本展が多くの県民のみなさんにとって、芸術文化により深く親しむ上でまたとない機会になれば幸いです。



会 期:8月19日(火)~31日(日)
会 場:福井県立若狭図書学習センター
多目的ホール
小浜市南川町6-11
TEL 0770-52-2705
時 間:午前9時~午後5時
(入場は午後4時30分まで)
休 館 日:8月25日(月)



会 期:9月27日(土)~10月8日(水)
*前号でお知らせした日程が変更になりました
会 場:敦賀市立博物館
敦賀市相生町7-8
TEL 0770-25-7033
時 間:午前10時~午後5時
(入場は午後4時30分まで)
休 館 日:9月29日(月)・10月6日(月)

観覧料はともに一般・大学生 100円(団体30名以上は2割引)
高校生以下・70才以上・身体障害者の方は無料

お知らせ

< 燻蒸による休館について >

館内の燻蒸および展示作業のため、6月23日(月)~7月2日(水)まで臨時休館とさせていただきますのでご了承下さい。
なお企画展と所蔵品によるテーマ展は7月4日(金)からの開催となります。

福井県立美術館 友の会

福井県立美術館では、5月7日(水)に役員会および総会が開催され、総会には多数の会員のみなさんが参加されました。総会終了後には、所蔵品によるテーマ展の鑑賞会が行われました。



テーマ展鑑賞会

また4月22日(火)より水彩画講座が開催されています。北嶋三智子先生(一陽会会友)のご指導のもと21名の方が受講されています。

水彩画講座を受講して

M.K

絵を描く事に興味を持ち始めたのは三年前です。それまでは、美術館で大きな展覧会がある時に鑑賞する程度でした。ある日、福井新聞で絵手紙のあることを知り、自分流に描いておりました。その絵手紙から始めて、人と人の輪が広がり、ちょうど子供の手もはなれて自分の時間が持てるようになり、いつの間にか水彩画を始め

ていました。

友達に福井県立美術館の友の会を紹介していただき、今年の三月に実技講座の水彩画展を見させていただきました。その時の北嶋先生の枝豆やコスモスの絵のあたたかい感じが、今も脳裏に残っております。私も描きたい。描けるになりたい。そんな思いでこの教室に入ってまいりました。北嶋



水彩画講座

先生から一つでも多く学びたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

広報板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111



北野恒富展

5月31日(土)~7月6日(日)

大阪を代表する院展作家、北野恒富の没後初の回顧展。浪速情緒にあふれた風俗画など、主要展覧会出品作品に、約100点の作品で北野芸術の精髓を紹介する。

一般:900円(700円) 括弧内は、前売りおよび
高大生:650円(500円) および20名以上の
小中生:450円(350円) 団体料金

「鏡の前」滋賀県立近代美術館蔵

永遠のグリム童話展

7月12日(土)~8月17日(日)

童話の恩人と呼ばれるグリム兄弟。ドイツ、カッセルのグリム兄弟博物館蔵の貴重な資料を日本初公開、日本でもなじみの深い童話の本来の姿がよみがえる。

一般:900円(700円) 括弧内は、前売り
高大生:650円(500円) および20名以上の
小中生:450円(350円) 団体料金

ウォルター・クレーン「かえるの王様」
1900年 グリム兄弟博物館蔵



岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

ワイルドスミス絵本の世界 「おとぎの国のファンタジア」展

7月5日(土)~7月27日(日)



「ライオンとネズミ」 Brian Wildsmith 2003-2004
Fantasia From A Fairyland

絵本作家ブライアン・ワイルドスミス(イギリス1930-)は、現代における絵本画家の最高峰の一人。その作品は色彩豊かで、やさしいヒューマニズムに色られています。

絵本原画、ポスター、絵本など約300点を紹介します。
大学生以上:600円(500円) 小中高生:200円(100円)
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

世界の巨匠水彩素描展

8月9日(土)~9月15日(月・祝)

アメリカのアーカンソー・アート・センターが所蔵する16世紀から現代までの西洋美術の巨匠たちによる水彩、素描作品約100点で構成。水彩や素描は、それ自体が独立した作品として魅力にあふれています。主な出品作家はレンブラント、ルーベンス、セザンヌ、ゴッホ、ドガ、ピカソ、マチスなど。

一般:900円(800円) 高大生:700円(600円) 小中生:400円(300円)
括弧内は20名以上の団体料金

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

・お知らせ・

2002年10月から2003年10月頃まで、三重県立美術館は増改築工事のため休館します。

美術館だより第100号

発行 福井県立美術館
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
tel.0776-25-0452
編集 福井県立美術館
印刷 河和田屋印刷株式会社
発行日 平成15年6月15日

本誌は再生紙を使用しています。